

## 真岡鐵道の運営、SL運行について(施設見学を含む)の報告 2018.11.02 記録

視察報告 真岡鐵道の運営、SL運行について(施設見学を含む)



2018年10月30日、栃木県真岡市を訪れ、標記(ほか)の視察を行いました。

真岡鐵道は、真岡鐵道株式会社と称し、会社設立が昭和62年10月20日、営業開始は昭和63年4月11日となっています。いわゆる旧国鉄が廃止を決定した路線を地元が自治体中心に資金を出し合い、路線継続を図ったもので、全長41.9キロメートル、全線単線非電化の運行です。



茨城県筑西市～栃木県芳賀郡茂木町を走行しますが、その中心に位置するのが真岡市にある真岡駅です。車両の整備基地があります。接続では、JR水戸線、およ

び常総線(筑波エクスプレス経由)の下館駅となっています。東北新幹線の宇都宮駅の接続は、真岡駅などよりバスの路線(所要時間 52 分)となります。



この鉄道の特徴は、蒸気機関車が通ることを売りにしており、「C11325」、「C1266」の機関車を用いた運行を行っています。その蒸気機関車運行を用いた運行は、土・日の上下各 1 本となっており、名実ともに観光用の運行です。その他の時間と通常日の運行は、ジーゼルカーが用いられています。



その他、真岡駅には、SLキューロク館があり、「SL9600」や客車の「スハフ4425」が展示、試乗することができます。この展示機関車の動力は、コンプレッサーの

「圧縮空気」が用いられており、炭水車部分に置かれています。この体験施設は真岡市が建設したものです。

## 所感



いずれにしても、その運営は容易なものではありません。人材的には、旧国鉄、元JRの社員を中心に運営されますが、プロパーの社員が育つことが大きな課題になります。

また、乗客では路線上の高校生が主対象ですが、この真岡鐵道路線全線の観光化(例えば、イチゴ日本一生産\*別記)と相まって利用者増の存在があり、その複合化がどこまで図れるにかなっていると思います。

真岡市は、「SLのまち 蒸気機関車が走るまち 真岡」とPRしており、その魅力向上にかかっています。

記 町田市議会議員 吉田つとむ 保守の会